

# 2015 年度精神分析セミナー

—第 7 期 2 年次開催のご案内—

主催：日本精神分析インスティテュート福岡支部 運営委員長：西園 昌久

精神分析セミナー2015 年度（第 7 期 2 年次）へのご挨拶

日本精神分析インスティテュート福岡支部 運営委員長 西園 昌久

昨年 1 年次で皆さんは「精神分析とは何か」というごく基本的なことを学ばれました。すなわち S. フロイトの精神分析の創始、メタサイコロジー、治療法の基本、症例研究などでした。今年度 2 年次ではフロイトの強調に始まる自我心理学、ポスト・フロイト精神分析といわれるクライン派、対象関係論、自己心理学、間主観性、関係論などの現代精神分析の基礎理論さらにはトラウマ、発達障害、新型うつ病など今日的テーマ、子どもの精神分析が準備されています。それらの講義を通して皆さんの精神分析理解が一層、深まることを期待します。

<2015 年度の開講予定>

\*2015 年度は 6 回開講する予定です。各回とも土曜日（15:00~20:00）と日曜日（9:30~12:30）を使つての開催となります

## 第 1 回『自我心理学』

コーディネーター：西園昌久

「エス（イド）あるところに自我をあらしめよ」はフロイト精神分析の到着点であった。人格構造論を中心としたメタ心理学にもとづく自我心理学はアンナ・フロイト、ハルトマンによって継承され、その後、米国を中心にさらに発展した。今回はこの自我心理学における基本的理論について学習するとともに、対象関係論、自己心理学などのポスト精神分析が発達するなかで現代自我心理学はどのような進化をしているかを明らかにする。なお、自我心理学の所産としてのパーソナリティ発達—ライフサイクル論について解説する。

### 平成 27 年 5 月 16 日（土）

①自我心理学の基礎/ アンナ・フロイト I) 自我防衛 II) 葛藤外の自我 III) 創造的自我	前田重治（九州大学名誉教授）
--	----------------

参考図書：アンナ・フロイト外林訳『自我と防衛』（誠信書房）、小此木啓吾『精神分析の成り立ちと発展』（弘文堂）

②自我心理学の新展開：米国での展開	妙木浩之（東京国際大学）
-------------------	--------------

参考図書：妙木浩之編『自我心理学の新展開』ぎょうせい

### 平成 27 年 5 月 17 日（日）

③情緒発達・ライフサイクル論	西園昌久（心理社会的 精神医学研究所）
----------------	------------------------

参考図書：Blos, P. (1965);野沢栄司(訳)「青年期の精神医学」（誠信書房、1971）、Erikson, E. H., Erikson, J. M. (1997);村瀬孝雄・近藤邦夫(訳)「ライフサイクル、その完結」（みすず書房、2001）、Erikson, E. H., Erikson, J. M., Kirmick, H. Q. (1986);朝長正徳・朝長利枝子(訳)「老年期」（みすず書房、1990）、西園昌久；「精神分析を考える」（中山書店、2014）

④総括	
-----	--

## 第2回『クライン派』

コーディネーター：古賀靖彦

メラニー・クラインは子どもの精神分析を通して、より原初的なところに対するアプローチと理論を創り上げました。そして、それらは幾多の後継者によって練り上げられ・発展させられて、精神病やパーソナリティ障害などの重篤な精神病理の精神分析を可能にしてきました。今回はこのような流れの骨格を追っていくことで、クライン派の一端を紹介します。

### 平成27年7月4日（土）

#### ①メラニー・クラインの新しい精神分析

I) 子どものプレイ・アナリシス II) ポジション論 III) 投影同一化 IV) 羨望

古賀靖彦（油山病院）

参考図書：1) H・スィーガル著、岩崎徹也訳『メラニー・クライン入門』岩崎学術出版社、1977. 2) 松木邦裕編集『オールアバウト「メラニー・クライン」』「現代のエスプリ」別冊 至文堂、2004.

#### ②ビオンの理論と臨床

ビオンはフロイト、クラインと並んで、精神分析の世界に革命的な影響を与えた人物と言われている。セミナーでは、ビオンの経歴、1940年代～1950年代のグループ療法の研究、1950年代の統合失調症の研究などを紹介したい。1960年代からは記号論的存在論ともいうべき、新しいメタサイコロジーの研究を行っている。それはかなり難解であり、賛否両論のあるところであるが、時間が許せば紹介したい。

衣笠隆幸（平和通り心療クリニック）

参考図書：1) Experiences in Groups, Hogarth Press. 2) Second Thoughts, Hogarth Press. (中川慎一郎訳『再考：精神病の精神分析論』金剛出版.) 3)余力があれば、福本先生、平井先生訳「精神分析の方法 I, II」(Seven servants, Jason Aronson) に目を通してください。

### 平成27年7月5日（日）

#### ③ローゼンフェルドの分析臨床

I) 統合失調症の精神分析 II) ナルシシズム III) 治療の行き詰まり

松木邦裕（京都大学）

参考図書：1)ローゼンフェルド,H.著、館直彦・後藤素規訳『治療の行き詰まりと解釈』（誠信書房、2001）

#### ④総括

<b>第3回『対象関係論』</b>		コーディネーター：鈴木智美
フロイトの一者心理学から二者心理学への変革は、精神分析をより臨床に即したものにしました。フロイト以後の精神分析の流れのひとつである対象関係論が、どのようにして生まれ変遷を遂げたのかについて見ていき、その臨床可能性を追っていきます。		
<b>平成27年9月26日（土）</b>		
①対象関係論、その考え方／独立学派 Ⅰ) 対象関係論とは Ⅱ) M・クライン-A・フロイトの大論争 Ⅲ) 英国独立学派	鈴木智美（精神分析 キャビネ）	
参考図書：小此木啓吾（編）『精神分析・フロイト以後』（現代のエスプリ 148、至文堂）、松木邦裕編・監訳『対象関係論の基礎』（新曜社）		
②フェアバーン/ ウィニコット Ⅰ) 対象関係論への転換 Ⅱ) 発達論と臨床技法 Ⅲ) 治療記録より	北山修（北山精神分析研 究室）	
参考図書：北山修『精神分理論と臨床』（誠信書房）、R.フェアバーン『人格の精神分析学』（講談社学術 文庫） 北山修『錯覚と脱錯覚』（岩崎学術出版社）、D.W. ウィニコット『抱えることと解釈』（岩崎学術出版社）		
<b>平成27年9月27日（日）</b>		
③フェレンツィとバリント	西園昌久（心理社会的 精神医学研究所）	
参考図書：西園昌久；S.フェレンツィ、ハンガリー・アナリストグループを含めて、(Imago 7(3):26-31, 1996、 バリント.M.(1952)、森ら（訳）『一次愛と精神分析技法』（みすず書房、1999）、バリント.M.(1959)、 中井ら（訳）『スリルと退行』（岩崎学術出版、1991）、バリント.M.(1968)、中井（訳）『治療論から みた退行－基底欠損の精神分析』（金剛出版、1978）、コーホン.G.(1986)、西園（監訳）『英国独立学派 の精神分析』（岩崎学術出版、1992）、フェレンツィ、S.(1985)、森茂起（訳）『臨床日記』（みすず書 房、2000）、森茂起ら（訳）『精神分析への最後の貢献－フェレンツィ後期著作集』（岩崎学術出版、2 007）		
④総括		

<b>第4回『自己心理学、間主観、関係論』</b>		コーディネーター：福井敏
フロイト以後の精神分析は、一者心理学から二者心理学という流れから、欧州、主に英国では対象関係論が展開され、新しい精神分析が発展して行きました。米国ではサリバンによる対人関係論に始まる関係論やコフトによる自己心理学といった精神分析が生まれ発展しました。今回のセミナーでは、それら米国でのフロイト以後の精神分析を概観し、それぞれの理論や技法を紹介し ます。		
<b>平成27年11月28日（土）</b>		
①米国精神分析の潮流 米国での二者心理学的な考え方や技法の新しい流れについて、主 にサリバンの対人関係論を中心にして述べる	福井敏（精神分析研究室 ②）	
参考図書：「精神分析理論の展開－欲動から関係へ」（J. R. グリンバーグ・S. A. ミッチェル著、横井公一監 訳、ミネルヴァ書房）		
②自己心理学から間主観性理論へ	岡秀樹（疋田病院）	
参考図書：「内省・共感・精神分析」（オーンシュタイン・伊藤洗監訳『コフト入門』岩崎学術出版 社）、コフト（水野・笠原監訳）『自己の分析』（みすず書房）の第1章「序論」、R.ストロロウら（丸田 俊彦訳）『間主観的アプローチ』（岩崎学術出版社）		
<b>平成27年11月29日（日）</b>		
③関係精神分析	岡野憲一郎（京都大 学）	
参考図書：『関係精神分析入門』（岩崎学術出版社）		
④総括		

<b>第5回『現代の問題への分析的理解』</b>		コーディネーター：松木邦裕
精神医学・臨床心理学の世界にも流行があります。現代の病としての脚光を浴びるのです。それらの障害や病について精神分析の視座から述べます。		
<b>平成28年1月23日（土）</b>		
①トラウマ		川谷大治（川谷医院）
参考図書：岡野憲一郎著『新・外傷性精神障害』（岩崎学術出版）		
②自閉症・発達障害		松木邦裕（京都大学）
I) 精神分析的な精神病理論 II) こころの次元 III) 自閉症		
参考図書：宮岡等・山内登紀夫著『大人の発達障害ってそういうことだったのか』（医学書院、2013）、松木邦裕「精神分析の一語：次元」精神療法40巻6・7号2014・2015		
<b>平成28年1月24日（日）</b>		
③新型うつ病		永松優一（福間病院）
参考図書：中嶋聡「『新型うつ病』のデタラメ」（2012）新潮選書、フロイト「精神現象の二原則に関する定式」（1911）フロイト著作集6、人文書院、フロイト「悲哀とメランコリー」（1917）フロイト著作集6、人文書院		
④総括		

<b>第6回『子どもの精神分析と精神分析的な心理療法』</b>		コーディネーター：鈴木智美
子どもの精神分析は、2人の女性アナリストによって開発されました。その精神分析的な理解は、重篤な大人の精神病理の理解にも貢献しています。今回は、その歴史と臨床実践について学びます。		
<b>平成28年3月19日（土）</b>		
①子どもの精神分析の歴史と展望		鈴木智美（精神分析キャビネ）
I) 創世記 II) クラインのプレイ・アナリシス III) A. フロイトの技法 IV) その後の発展		
参考図書：「新釈メラニー・クライン」ミラー・リカーマン著、飛谷渉訳、岩崎学術出版社、サンドラーら著、作田勉監訳『児童分析の技法』（星和書店）		
②精神分析的プレイセラピー		山崎篤（中村学園大学）
I) 子どものこころと抱える環境 II) 遊ぶことと playing を通して III) アンナ・フロイトの仕事		
参考図書：1) 山崎篤「プレイセラピーについてーウィニコットの見地から」（精神分析研究44(4,5)2000）2) 「精神病と子どもの世話」（ウィニコット、1952、「児童分析から精神分析へ」ウィニコット著、北山監訳、岩崎学術出版社、1990、92頁から104頁）3) 「遊ぶこと」（エイブラハム著、1996、館監訳、誠信書房、2006、5頁から17頁）*2) 3) はいずれもこなれた訳文で大変読みやすいものです。当日はお読みになられていることを前提に話をします。		
<b>平成28年3月20日（日）</b>		
③クライン派の子どもの精神分析的な心理療法		平井正三（御池心理療法センター）
参考図書：平井正三著『子どもの精神分析的な心理療法の経験』（金剛出版）、鶴飼奈津子著『子どもの精神分析的な心理療法の基本』（誠信書房）		
④総括		
講義終了後 講師と自由に語る		西園昌久、鈴木智美